外科医が教える必須解剖学

科目責任者：礒　　幸　博（第二外科学）

Ⅰ．前　　文

現役外科医が手術をする視点からの解剖学を，実際の手術ビデオや術中写真などを教材として使用し，対話を主体としたライブ形式の授業の中で，学生の知的好奇心を増大させていきます。さらに，机上のテキストや一般的な教科書学習から離れ，学生と教員の視線を合わせ，実際の外科の仕事現場で使っている腹腔内解剖の要点を臨場感たっぷりに導くことで，あふれ出した好奇心を昇華させ，高吸収することが可能となり，外科医の基礎である解剖学の効率の良い学習が可能となります。また，実臨床での外科解剖は発生学や病態生理への理解も必要であり，それらを切り離すことは困難なので，発生学に基づく解剖の知識や病態生理の解剖学的根拠などについても教授し，縦割りの通常授業では取得しえない，解剖，発生，外科治療との繋がりを体感していただき，その深い知識こそが外科治療の基礎であることを実感していただきます。

Ⅱ．受入可能人数

人数制限なし。

Ⅲ．担当教員

礒　　幸　博，櫻　岡　佑　樹，白　木　孝　之，松　本　尊　嗣

Ⅳ．学習内容

＜授業計画＞

第１週　肝臓　第１部
第２週　肝臓　第２部
第３週　胆道と膵臓　第１部
第４週　胆道と膵臓　第２部
第５週　食道，胃
第６週　十二指腸，小腸
第７週　結腸，直腸　第１部
第８週　結腸，直腸　第２部

Ⅴ．学修の到達目標

講義では教科書や一般教材は使用しません。外科医が実際の手術標本の写真や術中写真を基にしたオリジナルの教材を使用し，手術ビデオ，切除標本，術中写真などを供覧しながら，まさに外科医の目線からみた，解剖学を臨場感満載に展開していきます。授業の最後には小テストを行い内容把握の確認を行い，さらなる質疑応答や議論を通じて学生の知的好奇心が強固な知識に変換された時点で講義を終了とします。

Ⅵ．成績評価の方法・基準

全８コマ中，６回以上の出席を評価の対象として，講義中に行う内容把握のための小クイズの回答の正答率が60％以上で合格とします。合格者には，第二外科主催のアニマルラボや縫合実習への優先参加資格が与えられます。

Ⅶ．使用する教材・資料など

講義では教科書や教材は使用しません。外科医が実際の手術標本の写真や術中写真を基にしたオリジナルのプリントや書き込みシートを随時配布します。また実際の手術動画などを供覧しながら，まさに外科医の目線からみた，解剖学を臨場感満載に展開していきます。

Ⅷ. 質問への対応方法

授業中に対応できない部分については，個別に対応いたします。

Ⅸ. 求められる事前学習，事後学習　＊（　）内は所要時間の目安

事前学習は特に必要ありません。学力や学業成績は不問です。外科や解剖に興味がある全ての学生諸君の参加をお待ちしております。なお，事後学習として，授業の内容を整理・まとめておいてください（30分程度）

Ⅹ. コアカリ記号・番号

Ｄ－７：消化器系

Ⅺ. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

全て授業内で回答します。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎